



可児市とバローHD連携

「フードポスト」増設

家庭などで余った食品を集める「フードドライブ」の取り組みを推進しようと、可児市はバローホールディングス(HD)などと連携し、市内に設置するフードドライブポストを増設する。同時にペット用のポストも新設する。式典が2日、市役所で行われた。

(中村芳紀)

店舗や公共施設 ペット用も新設

式典でフードドライブポストと、ペット用のポストに食品などを入れる参加者＝可児市役所

市は2024年から、市内のバロー3店舗とコープぎふ可児店(同市下恵土)にポストを設置し、開始以来737キが集まった。市内で子ども食堂を実施している団体に贈っているほ

か、本年度から市社会福祉協議会が「フードパントリー」を始め、生活に困窮する人たちに渡るようにする。今回増設するのは、バロ

ーHDの事業子会社が運営する「Vドラッグ」5店舗と「スポーツクラブアクトス」、バロー人材開発センター「嫩葉舎」(同市大森)それに市役所と市福祉センター(同市今渡)、子育て健康プラザ「マリー」(同市下恵土)。

新たに、ペットフードやペット用シートなどを集める「ペットフードドライブ」の取り組みも始め、「ホームセンターバロー可児坂戸店」(同市坂戸)と嫩

葉舎、市役所にポストを置

く。市役所での式典で、小池祐功市民文化部長は「食品ロスへの市民の意識は高いが、フードドライブポストの認知度はまだ低い。より活性化を図る」、バローHD管理本部サステナビリティ推進室の秋元武室長は「お客さまとの接点が増え、

活動の認知度向上が見込まれる」とそれぞれあいさつした。